



配達地域指定

蓮沼むらづくり協議会だより 第16号



2025 3月



【発行】蓮沼むらづくり協議会 会長 秋葉俊雄 www.hasunuma-v.org

～生きがいと元気を生み出す愛着あるふるさとづくり～

蓮沼にお住まいの皆さまへ

▶ 圧着・二つ折りを開いて、
ご家族皆さままでご覧ください。



募集中



"ちょこっと"ボランティア

「蓮沼むらづくり協議会」は、市民が主体となって、身近な地域の課題解決に取り組む組織です。区長会、消防団、PTA、保育園・小中学校、各種の地域団体の計22団体が手を携えて、山武市の【地域まちづくり事業】として、10年目になります。

『生きがいと元気を生み出す愛着あるふるさとづくり』にむけ、蓮沼の課題を話し合い・行動し、知恵と力を寄せ合って、地域に役立つ取り組みをすすめています。さらに多くの方々とふるさとづくりを拡げたく、**"ちょこっと"ボランティア**を募集します。

(※詳しくは、裏面に)



会長 秋葉俊雄

22団体が手を携えて
蓮沼地域の課題解決へ



福祉防災

特養「海」
消防団
防犯協会
ゴールドクラブ
地区社協
自主防災会
赤十字奉仕団
民生児童委員

環境産業

区長会
道の駅
観光協会
商工会
JA山武郡市
スポーツ協会
FMさんむ

教育郷土文化

小学校
小学校PTA
中学校PTA
保育園
こども会
青少年相談員
神社総代会

役員会

会長 副会長 幹事 監事
事務局長 会計 事務局

構成：【会員】全住民3,474名（3/1現在） 【構成団体】22組織 【委員】49名⇒【役員会】22名
会議：定時総会（年1回） 委員全体会議（年2回） 各部会の会議、役員会議（月1回）

～生きがいと元気を生み出す愛着あるふるさとづくり～

蓮沼むらづくり協議会

www.hasunuma-v.org

事務局 ☎080-7837-3800

蓮沼むらづくり





<令和6年度・主な取組みより>

▼福祉・防災部会

買い物へ自由に行けない高齢の方へ
運沼むらづくり協議会 “買い物支援サービス事業”

2023 3月

Super Market

無料お買い物送迎車
買いものサポート

募集中!

新規登録・受付中

主 催：運沼むらづくり協議会 協 力：社会福祉法人みのり村特別養護老人ホーム海

買い物へ自由に行けない高齢の方々が、ご自身で買い物を楽にしたいことを目的に、買い物支援ボランティア、及び「特養ホーム海」の協力のもと、ご自宅近くから市内商店間を送迎する「買い物支援サービス」を行います。
利用料は、無料です。

募集!

- 日 時：毎月第2日曜、第4日曜
- 流 れ：午後1時台に自宅⇒市内商店
- 定 員：10名程度
- 対 象：運沼地区で70歳以上の方
(付添介助なし、お一人で買い物可能な方)

▼事前に、利用登録の申請手続きが必要です。
まずは、事務局までお気軽にお問い合わせください。

～生きがいと元気を生み出す愛あるささづり～

運沼むらづくり協議会
事務局 ☎080-7837-3800

① 買い物支援サービス

▼通年第2・第4日
(2月現在)

- *登録者24名
- *年間実施21回
- *累計利用者54名

同時募集(買い物支援)
「通年第2・第4日」
買い物支援ボランティア
2月～4月ご案内

2月＝ 9回、23回
3月＝ 9回、23回
4月＝ 13回、27回
(同時にご自宅に伺います)
※第2回＝セーターや防寒着、
ネックハウス等送ります。

ご利用の方は、お電話で告知
(実施日前の金曜日まで)
むらづくり協議会
☎080-7837-3800

山武市運沼交流センター

5月 → 10月

② はにわ道沿い美化活動

年間2期・500m

① ひまわり5月

② 菜の花10月



▼環境・産業部会



かかしコンテスト2024 審査結果一覧 (最終)

順位・賞状	審査得点	出展者・出展者	作品タイトル
最優秀賞 (第1位)	185点	4 ALL-J (和久山スズ子出展)	用タイムガ
優 秀 賞 (第2位)	164点	5 運沼交流センター 健康増進 有志	フラ ガール (ハナアツル フランセス)
優 秀 賞 (第3位)	145.5点	3 T-4777 運沼東志 川下ゴールドクラブ	お嬢ちゃんに孫と お手玉
特 別 賞 (第4位)	144.5点	1 山武望洋中学校 ボランティア部	鶴が鳴く 運沼の豊穣 (鶴に咲く花を鶴と共に)
第5位	92点	2 U I Y (松尾高松 義典)	サマー カカシ (真夏の楽しみかかし)
第6位	89点	6 道の駅事務室 有志	オライのかかし

かかしコンテスト2024表彰式

2024.8/18 @ 運沼交流センター

主 催：運沼むらづくり協議会・環境産業部会 協 賛：道の駅オライはすめま

③ かかしコンテスト

▼応募6作品
*7月募集
*道の駅展示
*審査8月表彰式

かかしコンテスト

2024 @ オライはすめま

運沼むらづくり協議会 環境産業部会

▼“運沼・松尾らしさ” 応募81作品 (29名・団体)

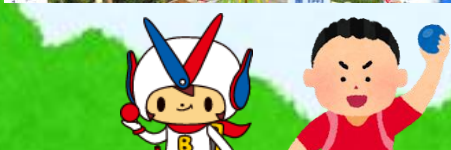
*一次審査30作品⇒展示2/8～28 *二次⇒入賞6作品：表彰式2/9

12月 → 2月

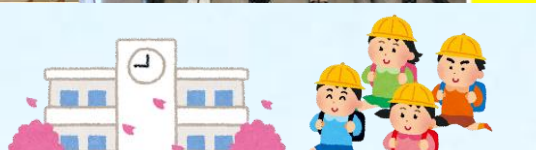
⑤ フォトコンテスト

賞状

1 2 3



▼教育・郷土・文化部会



④ ボッチャ大会

▼16チーム
参加46名

1月

(緑海まちは協、山武西まちは協、
ゴールドクラブ、山武望洋中、小
学生、民生児童委員、防犯協)

2024 1月25日
10:30～12:30
山武市運沼交流センター
1階大会会場
入場無料
観戦は無料
観戦は無料

蓮

地域と連携した児童集会

投稿日時：02/06 管理者 カゲゴリ

2月6日(木) 児童集会を行いました。

計画委員の子ども達が計画・運営し、運沼かるたや全校大玉おくりを行いました。運沼かるたでは地域の運沼むらづくり協議会の方が来てくださり、かるたを読んでもくださいました。

大盛り上がり笑顔いっぱいの児童集会でした。

2月

⑥ 運沼小・児童集会協力

▼全校133名の「運沼かるた大会」⇒かるたの詠みあげ、など運営協力

“ちょこっと”

ボランティア 2025 募集中



地域交流 イベント

▼当会の【最新情報】↓

蓮沼むらづくり

▶お時間ある時、ご協力できること
“**ちょこっと**”ボランティアで、
当会の活動へお手伝いください。

↓↓

*例

季節で色々

- ・買い物サポートの同行（ワゴン車）
- ・はにわ道沿いヒマワリ～菜の花植栽
- ・子ども110番登録宅のプレート更新
- ・ポッチャ大会の運営スタッフ
- ・フォトコンテスト、救急医療キット訪問
- ・平時～災害時の避難所運営
- ・地域イベントの運営協力、など

▶どなたでも、お気軽にお知らせください

蓮沼むらづくり協議会事務局（秋葉、金澤）

☎ 080-7837-3800

hasunumamura@gmail.com



水害
に関する
マップ

土砂災害
に関する
マップ

津波
に関する
マップ

地震
に関する
マップ

NEW

▶ネットで【防災ハザードマップ】

山武市【防災ハザードマップ】インターネット版が3月公開。

水害・土砂・津波・地震の種別を選び、指定した場所が
「どういう被害がありそうか」が、スマホでもチェックできます。

<https://www.city.sammu.lg.jp/hazardmap/index.html>



【後記】

令和6年度は、各地で大きな地震や記録的大雨・台風などの被害、冬は記録的な降雪や乾燥による山火事の発生など、自然災害が相次いでいます。避難生活や被災環境から1日も早い復旧が望まれます。

東日本大震災から14周年、あらためて災害に備え平時の準備へ、「もしもへ、いつも、忘れない」の大切さを…。

蓮沼の人口

合計

男性

女性

65歳以上

高齢化率 65歳以上

平成28年

4,100人

2,039人

2,061人

1,331人

32.46%

平成29年

4,003人

1,989人

2,014人

1,373人

34.30%

平成30年

3,909人

1,953人

1,956人

1,327人

33.95%

平成31年

3,881人

1,940人

1,941人

1,335人

33.40%

令和2年2/1

3,816人

1,907人

1,909人

1,346人

35.27%

令和3年2/1

3,758人

1,881人

1,877人

1,367人

36.38%

令和4年3/1

3,648人

1,824人

1,824人

1,347人

36.92%

令和5年3/1

3,628人

1,835人

1,793人

1,341人

36.96%

令和6年3/1

3,535人

1,779人

1,756人

1,332人

37.68%

令和7年3/1

3,474人

1,756人

1,718人

1,330人

38.28%

令和6年度 事業実施状況(事業別)

令和7年3月31日 蓮沼むらづくり協議会

	事業名・取組項目	時期	対象	事業内容	備考
福祉防災事業	健康と福祉の増進、及び安全・安心なむらづくりの推進				
	ふれあい交流事業 (沿道へ花の植栽)	5月～10月	地域内	はにわ道沿いにひまわり～菜の花の植栽を通し、地区内のふれあい交流～環境美化を考える機会につなげる	菜の花刈取 5/11、花壇製作 6/14、ひまわり播種 6/15、撤去 9/14、花壇修理 10/5、菜の花播種 10/12
	地域支え合い事業 (買い物支援サービス)	通年 第2・4回	利用登録者	普段の買物に不便を感じている方を支援するため、地元商店での買い物へ送迎(特養海の車両支援)、新規登録の拡大促進	登録者 24 名、年間計 23 回実施、累計 58 名利用、登録者から意見要望を集約(4 月往復ハガキ実施)
	講座開設事業(防災・避難)	中止	全住民	災害時の避難場所の確認、情報伝達・移動支援、避難所運営の支援(受付、案内)、ハザードマップ周知に係る出前講座⇒見送	7/20 全体会「蓮沼地域の防災活動」＝関係団体・機関が調整できる場の必要性等を率直に意見交換
教育郷土文化事業	社会教育活動を通じた地域の絆づくりと、住民交流及び郷土文化の保存				
	青少年団体の関係者意見交換会	6月	地域内	PTA・相談員・子ども会・スポ少等の役員が各活動や児童・生徒等の課題を話し合う	相互理解を深め連携した取組みの一助につなげる⇒6/22 参加 7 名
	蓮沼海岸ゴミ拾いフェス & 宝探しゲーム@中下海岸	中止	教育機関	スポーツgomi活動を視野に、蓮沼海岸の美化と愛着を深めるきっかけに ⇒見送	蓮小・望洋中と提携し検討、緑海まち協連携も視野⇒準備体制で未達
	蓮沼小バザー支援事業 ⇒「児童集会」へ運営協力	2月	教育機関	バザーへのサポートを通じ、学校と地域のつながりにより、子ども達の社会性を育む	愛郷心を育む事業を併行して企画⇒2/6「蓮小児童集会」かるた協力
	世代間交流ポッチャ大会	1月	教育機関 全住民	地区内の児童生徒・親子・高齢者、市内 2 協議会が参加し交流を促進	多層なチーム編制での参加推進し、1/25 開催(16 チーム・46 名)
	蓮沼ソニックフェスティバル 企画支援	通年	全住民	蓮沼中学校跡地での音楽・交流のフェスの実現に向け実行委員会へ協力(PR、打合)	本年度は準備期間としフェス実行委協力⇒7/13・12/14 マルシェ PR
環境産業事業	地区内の関係団体が連携し、環境整備や産業・地域振興に向けた取り組み				
	ひまわり育成奨励事業	4月	教育機関 地域内	保育園・蓮沼小・望洋中、道の駅・交流センター等、ひまわり育成を通じ、協議会PR	4/17 種配布(ホケッテイッシュ同封)各所プリンター設置
	かかしコンテスト2024	7～8月	地域内	米作りから田んぼ景観の伝承・豊作祈願等によるふれ合いと助け合いの機会	7/10 応募、7/14 相談会 7/27 搬入～道の駅展示～審査、8/18 表彰式(会場)交流センター
	情報発信のプラットフォーム 取組み事業	通年	地域内	道の駅と連携した地域情報発信を中高生～千葉商大学生と意見交換から継続検討	地域情報発信の在り方、ポータルサイトの検討は未達で継続課題に
	フォトコンテストはすめま 2024 “蓮沼・松尾らしさ”	12 月募集 2 月展示	地域内	蓮沼地域の行事・風景を被写体とした写真を募集しコンテストを拡幅⇒81 作品(29 名)	12/10～1/15 募集、選考審査、展示 2/8～28 上位 30 品、2/9 表彰式
	故郷はすめま伝承事業	通年	地域内	蓮沼の偉人を地域内外へPRするチラシ作成、子ども達へ語り継ぐ取組み	北川千代氏、秋葉祐之氏、鈴木孝政氏の紹介チラシ増刷、PR継続
共通事業	コミュニティの再生・活性化にむけて、様々な団体・個人が連携し、身近な課題の解決への取り組み				
	救急医療情報キット活用 配置事業	通年	地域内	高齢者の独居世帯の生活支援へ市と連携し、説明訪問・情報更新へ区長・民生委員・福祉推進委員・当会 4 者実行委にて推進	対象:65 歳以上の高齢世帯、独居世帯、介護世帯等。現登録＝241 世帯、306 名へ配布後 1 年経過時にハガキ連絡～フォロー訪問等
	地域課題の意見交換会 ”連絡調整会議”の役割	7月	地域内	様々な団体・個人と連携し、活動～課題を共有、地域課題の解決につなげる	協議会全体の開催時テーマ設定 6/1 総会、7/20 全体会
	市内3地域協議会合同で研修会開催「避難所の運営」	通年	3協議会 合同	協議会同士の情報共有と交歓交流を深め、研修会の参画を継続 (⇒2/8 研修会)	6/20・8/29・9/26・12/12 連絡会、1/25 ポッチャ大会招待、3/21 成果報告会
	蓮沼地元開催のイベント行事へ協力	通年	地域内	協力要請を基に参画し、地域組織としての活動を広く内外へ PR	4/21 蓮沼ウォークフェス運営協力 8 名、10/20 福祉まつり⇒見合せ
	コミュニティスクールへの運営 協力(学校運営協議会)	通年	地区内	中学校統合後に新設コミュニティスクールへ、運営協力として当会委員参画	協議会委員より代表 1 名を 2 期目継続して参画し情報共有
組織運営事業	周知広報・調査研究、むらづくり計画の策定、会議の実施、広報紙の発行等に係る組織運営の拡充				
	広報紙発行・PR事業	3月	全住民	広報紙の作成発行、情報発信支援等実施(地区内の広報チラシ折込支援)⇒当会PR	圧着 A4 ハガキ活用、下料・印刷費高騰で発行 1 回 3/17(1471 全戸)
	組織拡充事業 (IT活用、情報提供の通信員)	通年	全住民	地区の身近な情報共有に向けて、WEB サイトの改善、IT機器の導入と活用 地域密着の情報提供へ通信員の協力促進	Webサイト随時更新(蓮沼関連) 委員「ラインワークス」活用推進 (事業別の情報発信～共有)
	委員の募集継続	通年	全住民	協議会行事へ参加・協力していただく委員募集を講座参加者・広報で呼びかけ	気軽なお手伝い役「ちょこっとボランティア」を 3 月広報で募集告知
	委員向けの情報共有 会のPR・認知度アップ	通年	委員	会全体、各部会の取組みの理解・共有、会PR・認知度アップへ資料を活用(幟・シャツ)	委員全体の一体感の醸成⇒全体会年 3 回(6・7・12 無)新資料活用
	各種会議 各種研修会	通年	委員	・全体会(年 3 回) 6 月総会、7 月、12 月 ・役員会(月 1 回定例) 会計監査 ・各部会会議(隔月) ・各種実行委員会(ゴミ拾い、ポッチャ) ・各種研修会への参画	・年次定時総会(対面 6/1回)20 名 ・7/20 全体会「地域防災」16 名 ・11/8 県「協働まちづくりセミナー」1 名 ・11/16 社協「福祉有償運転講習会」2 名 ・1/18 市「まちづくりセミナー」5 名 ・2/8 市内3協議会「避難所運営」6 名 ・3/21「成果報告会 in さんむ」4 名

※例言・・・断＝今年度新規に取り組む内容の事業

括弧＝前年度実績から拡充して取り組む内容の事業

令和7年度 事業実施計画(事業別)

“楽しく、笑顔の広がる活動に” 令和7年6月7日 蓮沼むらづくり協議会

	事業名・取組項目	時期	対象	事業内容	備考
福祉防災事業	健康と福祉の増進、及び安全・安心なむらづくりの推進				
	ふれあい交流事業 (沿道へ花の植栽)	5月～10月	地域内	はにわ道沿いにひまわり～菜の花の植栽を通し、地区内のふれあい交流～環境美化を考える機会につなげる	菜の花刈取 5/18 種採 5/31、花壇 6/** ひまわり 播種 6/**、撤去 9/**、土入 9/**花壇 10/**、菜の花播種 10/**、花壇 10/**
	地域支え合い事業 (買い物支援サービス)	通年 第2・4回	利用登録者	普段の買物に不便を感じている方を支援するため、地元商店での買い物へ送迎(特養海の車両支援)、新規登録の拡大促進	5月～買い物先をセイミヤのみに(駐車場等の安全確保のため)、連休考慮し設定(下期～縮小検討)
	講座開設事業(防災・避難)	下期	全住民	災害時の避難場所の確認、情報伝達・移動支援、避難所運営の支援(受付、案内)、ハザードマップ周知に係る出前講座	「蓮沼地域の防災活動」に係る関係団体・機関が調整できる場の必要性等を率直に意見交換する場
教育郷土文化事業	社会教育活動を通じた地域の絆づくりと、住民交流及び郷土文化の保存				
	青少年団体の関係者意見交換会	下期	地域内	PTA・相談員・子ども会・スポ少等の役員が各活動や児童・生徒等の課題を話し合う	相互理解を深め連携した取組みの一助につなげる
	蓮沼小バザー支援事業 ⇒「児童集会」へ運営協力	2月	教育機関	バザーへのサポートを通じ、学校と地域のつながりにより、子ども達の社会性を育む	愛郷心を育む事業を併行して企画
	世代間交流ポッチャ大会	1月	教育機関 全住民	地区内の児童生徒・親子・高齢者、市内2協議会が参加し交流を促進	年代と所属を多層なチーム編制での参加推進
	SUNMシくんぬり絵の作品展示(保育園・小学校連携)	5月～通年	教育機関	蓮沼保育園・蓮沼小との連携で子どものぬり絵作品を集約し、交流センターにて展示	保育園・小学校、交流センター、当会の4者協働で活性化
環境産業事業	「こども110番」の家登録者の取組みへ蓮小PTA 協働	通年	全住民	地域ぐるみで子どもの安全を見守っていくボランティア活動をPTA協働で登録更新等	登録者82世帯(R7年2月末現在)
	地区内の関係団体が連携し、環境整備や産業・地域振興に向けた取り組み				
	ひまわり育成奨励事業	4月	教育機関 地域内	保育園・蓮沼小・望洋中、道の駅・交流センター等、ひまわり育成を通じ、協議会PR	4/7～種配布(ホケッテイッシュ同封)各所ブランター設置
	かかしコンテスト2025	7～8月	蓮沼松尾	蓮沼・松尾の稲作田んぼ景観の伝承・豊作祈願等によるふれ合いと助け合いの機会	7/**応募、7/**相談会 7/**搬入～道の駅展示～審査、8/**表彰式(会場)交流センター
共通事業	フォトコンテストはすめま2025 “蓮沼・松尾らしさ”	12月募集 2月展示	蓮沼松尾	蓮沼・松尾の行事・風景を被写体とした写真作品を募集しコンテスト⇒**作品(**名)	12/**～1/**募集、選考審査、展示 2/**～**上位作品、2/**表彰式
	故郷はすめま伝承事業	通年	地域内	蓮沼の偉人を地域内外へPR、子ども達への語り継ぎ、愛着あるふるさとづくりへ	北川千代氏、秋葉祐之氏、鈴木孝政氏の紹介チラシでPR継続
	コミュニティの再生・活性化にむけて、様々な団体・個人が連携し、身近な課題の解決への取り組み				
	救急医療情報キット活用配置事業【3年フォローアップ】	通年	地域内	高齢者の独居世帯の生活支援へ市と連携し、説明訪問・情報更新へ区長・民生委員・福祉推進委員・当会4者実行委にて推進	対象:65歳以上の高齢世帯、独居世帯、介護世帯等。現登録=241世帯、306名へ配布後3年経過し往復ハガキ連絡～フォロー訪問等
組織運営事業	地域課題の意見交換会 “連絡調整会議”の役割	7月10月	地域内	様々な団体・個人と連携し、活動～課題を共有、地域課題の解決につなげる	協議会全体の開催時テーマ設定 7/**全体会、10/**全体会
	市内3地域協議会合同で研修会開催	通年	3協議会 合同	協議会同士の情報共有と交歓交流を深め、研修会の参画を継続 (2/**研修会)	6/**・8/**・9/**・12/**連絡会、1/**ポッチャ大会招待、3/**成果報告会
	蓮沼地元開催のイベント行事へ協力	通年	地域内	協力要請を基に参画し、地域組織としての活動を広く内外へPR	5/18 蓮沼ウォークフェス運営協力 8名、各種のイベント行事等へ
	【むらづくり活動骨子】改訂(仮)「防災安心むらづくり中期計画」	下期	地区内	R5地域づくりアンケートで声の寄せ合いもとに、会発足時【むらづくり活動骨子】改訂	先達地域(香取市等)へ調査研究(バス見学会、学習会)～中計策定
	周知広報・調査研究、むらづくり計画の策定、会議の実施、広報紙の発行等に係る組織運営の拡充				
組織運営事業	広報紙発行・PR事業	3月	全住民	広報紙の作成発行、情報発信支援等実施(地区内の広報チラシ折込支援)→当会PR	圧着 A4 ハガキ、下料・印刷費高騰で発行1回 3/**(現在 1471 全戸)
	組織拡充事業 (IT活用、情報提供の通信員)	通年	全住民	地区の身近な情報共有に向けて、WEB サイトの改善、IT機器の導入と活用 地域密着の情報提供へ通信員の協力促進	Webサイト随時更新(蓮沼関連) 委員「ラインワークス」活用推進 (事業別の情報発信～共有)
	「ちよこつとボランティア」PR推進で、委員の拡充を継続	通年	全住民	協議会行事へ参加・協力していただく委員募集を講座参加者・広報で呼びかけ	気軽な助っ人役「ちよこつとボランティア」既 3 月広報～募集告知中
	委員向けの情報共有会のPR・認知度アップ	通年	委員	会全体、各部会の取組み理解・共有、PR・認知度アップへ資材活用(名入キャップ)	委員全体の一体感の醸成⇒全体会年3回(6・7・10月) 新資材活用
	各種会議 各種研修会	通年	委員	・全体会(年3回) 6月総会、7月、10月 ・役員会(月1回定例) 会計監査 ・各部会会議(隔月) ・各種実行委員会 ・各種研修会への参画	・年次定時総会(対面 6/7回)**名 ・7/**全体会「地域防災」**名 ・11/**県「協働まちづくりセミナー」*名 ・11/**社協「福祉有償運転講習会」*名 ・1/**山武市「まちづくりセミナー」*名 ・2/**市内3協議会「**研修会」*名 ・3/**山武市「成果報告会 in さんむ」*名

※例言・・・ 新=今年度新規に取り組む内容の事業 拡=前年度実績から拡充して取り組む内容の事業 再=前々年度の実施事業を再起動

蓮沼むらづくり協議会規約

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、蓮沼むらづくり協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第2条 協議会は、市民協働による地域づくり活動を通じて、豊かな環境を守り、生きがいと元気を生み出す深い絆で結ばれた愛着あるふるさとづくりの実現に寄与することを目的とする。

(事業及び活動地域)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 福祉及び防災の推進に関すること。
- (2) 環境の保全及び産業の振興に関すること。
- (3) 教育の推進及び郷土文化の振興に関すること。
- (4) 前各号に係る活動の担い手の育成及び支援
- (5) その他目的達成のために必要な活動

(事務所)

第4条 協議会の事務所は、蓮沼むらづくり協議会会長宅に置く。

第2章 組織

(会員)

第5条 協議会の会員は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 蓮沼地区の住民
- (2) 蓮沼地区の団体・事業者等で役員会の承認を得た者
- (3) その他会長が必要と認める者

(委員)

第6条 協議会の委員は、総会で承認された、各種活動団体の代表する者並びに会長が推薦する者をもって充てる。

(役員)

第7条 協議会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 事務局長 1名
- (4) 事務局員 若干名
- (5) 会計 1名
- (6) 幹事 若干名
- (7) 監事 2名
- (8) 顧問 若干名

2 役員は、委員の中から総会において選出する。

(役員の任務)

第8条 役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、協議会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し会長に事故があるときはその職務を代理する。
- (3) 事務局長は、協議会運営に関する事務を所掌するとともに、組織構成や関係機関との連絡・調整等を行う。
- (4) 事務局員は、事務局長の職務を補佐する。
- (5) 会計は、協議会の運営及び活動に伴う事務及び経理を担当する。
- (6) 幹事は、担当する部会の運営及び必要に応じて会務を分担する。
- (7) 監事は、協議会の会計監査を担当する。
- (8) 顧問は、協議会運営に関する必要な助言を行う。

(役員の任期)

第9条 第7条の役員の任期は**2年**とする。ただし再任を妨げない。

2 補欠により選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会)

第10条 協議会は、事業の推進を図るため次の部会を設置する。

- (1) 福祉防災部会
- (2) 環境産業部会
- (3) 教育郷土文化部会

2 各部会に次の役員を置く。

- (1) 部会長 1名
- (2) 副部会長 1名
- (3) 部会員 必要な人数

3 部会長は、会長が指名し、幹事に推薦する。

4 副部会長は、部会員の中から部会長が指名する。なお、部会長は、必要に応じ会計その他役員を置くことができる。

(部会員の任期)

第11条 部会員の任期は、**2年**とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠部会員の任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会議

(会議)

第12条 協議会の会議は、総会、役員会及び部会とする。

2 協議会の会議に必要と認めるときは、会議に所属する以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(総会)

第13条 総会は、協議会の最高議決機関であって、委員をもって組織する。

2 総会は、会長が招集し、毎年1回、定期総会を開催するほか、会長及び役員会において必要と認めたとき臨時総会を開催する。

3 総会の議事は、出席者の過半数によって決する。

4 総会は、次の事項を決定する。

- (1) 地域むらづくり計画
- (2) 役員等の選任に関する事。
- (3) 予算及び決算に関する事。
- (4) 本規約の改廃に関する事。
- (5) その他、重要事項に関する事。

5 緊急を要する場合は、総会の決定事項について、役員会で決定することができる。ただし、この場合はこれを総会に報告し、承認を得るものとする。

(役員会)

第14条 役員会は、第7条に定める役員をもって構成する。

2 役員会は、必要に応じて開催する。

(部会)

第15条 部会は、必要に応じて部会長が招集する。

2 部会は、各所管事項の企画及び執行にあたる。

3 その他、部会の運営等に関し必要な事項は、部会長が定める。

第4章 財務

(会計)

第16条 協議会の経費は、賛助金、補助金、交付金、その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計等帳簿の整備)

第18条 協議会は、収入、支出及び資産を明らかにするため、帳簿を整備する。

(監査と報告)

第19条 監事は、会計年度終了後に会計監査を行い、総会に報告する。

第5章 その他

(委任)

第20条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営等に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規約は、平成27年6月14日から施行する。

改廃履歴

【一部改定】(令和元年5月12日総会) 第7条・第8条に、事務局員・顧問を追記。

生まれ故郷の「記念碑」

故郷の深谷周辺の様子を描いた作品の一つが『お父さんの村』です。

平成十四年（二〇〇二）十月に「北川千代顕彰会」が、千代の功績を後世に残そうと、城址公園通り沿いに建立した文学（記念）碑には、当時の自然豊かな春の情景が伺える一文が刻まれています。



碑文



四月になると、
畠の麦のほはのび、
なのは花はちやちやと
黄色くさきはじめ、
利根川へはいる
新川の土手には、
たんぽぽや、
れんげそうの花がさいて、
村はまるで絵のやうに
きれいになりました。
「お父さんの村」より

千代時世の句

猫のため少しあけおく 寒さかな
種子一つ 残さで散りぬ 寒椿



▲ 1894～1965

山武市（蓮沼）ゆかりの児童文学作家 『北川千代』をご存じですか？

名作『絹糸の草履』で知られる、童話作家の北川千代が蓮沼の地に移り住んだのは、昭和十五年（一九四〇）のことであった。当時四十六歳であったが、蓮沼村殿下（現山武市蓮沼口）にある「汐入沼のほとりの家（水荘）」を仕事場として、『青い麦の穂』など数多くの作品を残した。

【蓮沼村史の記述から】

六十三の作品の内、三十三作品は蓮沼の仕事場で書かれました。蓮沼の様子を作品にした『村のたより』や地域の方言を巧みに使った『小さいあらし』があります。「ゆかりの著名人」ながら、年配の方でさえ「名前しか知らない。」というのが現状のようです。そこで、多くの方々の「理解・協力」を発刊されている資料をもとに紹介します。

蓮沼がモチーフと思われる

千代の代表作

「ほら太東岬と銚子の犬吠埼との間に、九十九里浜っていうのがあるだろう。ほとくのきた村はその長い海岸のちょうどまん中ごろなんだよ。」

この村は海に面しているけれども、漁をしているのは浜ぞいの方の人たちだけで、あとはたいていお百姓だ。

いまはもう春で、地引きもそろそろはじまるから元気づけよう。

（『村のたより』より）

浜ではまい朝地引きあみの板木（ばんぎ）が鳴ります。

そしてそれを手つたえは、だれにでも魚をわけてくれるのです。

トシ子やテル子の友だちにも、そのすけつと（助つ人）に行くものはたくさんいました。

「だって売るほどはくれめ。」と、

「そしたらうちで食つたらよかべ。そいだって、買わないでうちで得くだ。」

「そうだなあ。じゃ地引きに行くべか。」
「うん、行くべ行くべ。…」
（『小さいあらし』より）



▼千代が自宅で使用した火鉢



▲千代生誕の地
日本煉瓦製造(株)跡地
現在の資料館

▼愛用したメガネとペン



晩年の千代の肖像／肘をかけているのが下の写真の火鉢 →

▼晩年を過ごした蓮沼の自宅
「池すのおばさん」と呼ばれた由縁



※掲載資料のご提供に感謝申し上げます。

- ・ご遺族様やゆかりの方々
- ・さいたま文学館様
- ・深谷市（人権政策課）様
- ・北川千代顕彰会（深谷市）様
- ・山武市歴史民俗資料館様



▲みつばちマーヤの冒険



▲青い麦の穂



▲花の地球

千代の執筆作品や 翻訳作品

<2021年12月発行：蓮沼むらづくり協議会>

◇掲載の写真は、上記の皆様提供の他、深谷市教育委員会様発行の冊子「深谷で生まれた児童文学作家：北川千代」から転載させていただきました。

北川千代 誕生

名作『春やいづこ』で知られる童話作家の北川千代は、明治三十七年（一八九四）埼玉県大里郡大寄村敷免（現在の深谷市）で生まれました。父の後は、東京府の士族、母のちようは新町の富沢氏の人といわれています。

俊は渋沢栄一が設立した日本煉瓦会社の工場長として活躍し、ドイツに留学して新しい技術を持ち帰り、日本煉瓦の品質を飛躍的に向上させました。

北川家は東京の西大久保にありましたが、家族とともに埼玉に赴任した後は、工場内の社宅で生活しており、千代もこの社宅で生まれました。

当時市内最大の工場の責任者の娘であった千代は優しい父母に囲まれ、経済的にも裕福でした。9人兄弟の長女であった千代には、3人の兄と妹が2人、弟が3人いました。

長兄の隆三と末弟の文夫は画家、弟の武夫は初めて『ピノキオ』を紹介した翻訳家、というように千代の兄弟には、絵画や文学を志す者が多く、これはドイツ留学の経験を持つ父の影響だとされています。



東京駅を模してレンガ調の造りで改築された JR 深谷駅

初代PTA副会長

昭和二十三年（一九四八）三月、蓮沼村小・中学校PTAが発足し、千代は初代副会長に就任します。

子どものいない千代でしたが、自ら特別会員としての入会を申出たうえで、役員に推挙されたと聞きます。

また、学校へ自らの作品をはじめとする多くの図書を寄贈し、それは「北川文庫」と称され、子どもたちに親しまれました。



千代の残した児童文学

児童文学者としての道を歩んだ千代は、多くの作品を残しました。中には竹久夢二が挿絵を添えるものもありました。

外国の童話の紹介にも熱心で、『アンデルセン童話』『家なき子』『ピーターパン』等、今でも親しまれている作品も手がけました。

昭和三十九年（一九六四）には『みつばちマーヤの冒険』で、児童文芸家協会から第6回児童文化



千代 13歳

結婚と離婚

大正四年（一九一五）、人気作家の江口渙と結婚。大正八年（一九一九）、雑誌『赤い鳥』に童話『世界同盟』を発表します。以後、童話を新聞や雑誌に、少女小説を『令女界』『少女倶楽部』などに掲載しました。

大正十一年（一九二二）、二十二歳の時に江口と離婚し、その後、足尾銅山のストライキの指導者であった、高野松太郎と生活するようになります。



千代 29歳

功労章が贈られました。

千代が亡くなった後の昭和四十四年（一九六九）には、彼女の業績を記念して日本児童文学者協会により、新人童話作家の登竜門といえる「北川千代賞」が創設されました。

平成九年（一九九七）に桶川市にオープンした県立さいたま文学館では、千代のコーナーが常設展示され、貴重な資料を見ることが出来ます。



▲代表作:春やいづこ 絹糸の草履



▲翻訳作品:ピーターパン等

北川千代さんの想い出

千代さんは、私が女学校（二年生）数え十四歳、昭和十四年の春、蓮沼へ越していらした。昔、我が家の別荘だった「池す」を買い、或る日おじちゃんと二人で我が家に挨拶に見えた。「ステキな方だなあ!」と思った。私の両親と話が合い、夜遅くまでおいでになった。

蓮沼にきた千代

千代が蓮沼の地に移り住んだのは昭和十五年（一九四〇）のことでした。当時四十六歳であった千代は、殿下区にあった与謝野鉄幹、晶子夫婦の別荘を2千五百円で購入しました。

この別荘は4反歩（4千㎡）程の敷地のほとんどが池で、蓮沼の網元であった小川新兵衛氏が書齋として建築したものでした。千代は「汐入りの沼のほとりの家」と呼ばれたこの家を仕事場として『青い麦の穂』『お父さんの村』『沼のほとり』など数多くの作品を残しました。

昭和十八年（一九四三）、夫の松太郎が蓮沼の地で永眠した後、周囲の温かい好意に包まれ、千代は蓮沼に永住することを決め、東京世田谷の自宅を売って本籍も移しました。

当時の日記には「殿下の祭り。屋根屋さんより強飯（赤飯）を、局長さんよりすしを、女医さんより餅をもらっ」とあります。

蓮沼村の住民となった千代は、戦中から戦後にかけて、村の人々から「池すのおばさん」とか「沼のおばあさん」と慕われ、昭和四十年（一九六五）、七十一歳で永眠するまで、村の人になりきった生活をしていったといわれています。



大正15年頃の夫妻

私は、昭和十九年結婚し地元の医家へ嫁いだが、千代さんは私の夫と文字のことで気が合い、良くいらつやっていた。

東京へは、一ヶ月に二回位出かけになられ、其のつと子供達に田舎にはないモダンなプレゼントを下された。



汐入沼のほとりの家（水荘＝池す）で

私も時々先生のお宅へお邪魔し、めずらしい物をこそうになった。

特にご主人様の実家の能登から、美味しいお魚などが届きめずらしかった。人生についての事、又ご自分の歩いてきた道をこまこまと話してくれた。

一番のショックは何と言ってもご主人さまの死でした。

泣いて泣いて涙も出ない・・・

お葬式はごく簡単でした。それ以来特に文学に挑みました。思ひ出は尽きず、なつかしさが胸の中にぎゅぎゅ詰まっています。

平成十五年十一月十五日

T・K

「北川千代顕彰会」様宛ての手紙の一遍

伝説の“汽車より速かった男”

▼連続優勝Ⅱ第5・第6回全国選手権男子マラソン
▼金栗と各20日間て走破Ⅱ下関―東京間、樺太―東京間

秋葉祐之

すけ ゆき

【山武市(連沼)出身】日本一の長距離ランナー

マラソンの父・金栗に見いだされた男



秋葉 祐之 (あきば すけゆき)
1895(明治28)～1968(昭和43) 連沼村出身
東京高等師範学校在学中からマラソン選手として活躍する。卒業後に中学校教諭となつてからも、金栗四三とともに、1919(大正8)年の下関―東京間マラソン、1922(大正11)年の樺太―東京間マラソンに出場。選手としての一線を退いた後は、1958(昭和33)年から、故郷の連沼村で教育長を務めた。

▲二人の熱き思いは箱根駅伝へ 秋葉(左) 金栗(右) / 出典:【東京坂道ゆるラン】WE B

さんむ 4月号 2019 No.157

▲「広報さんむ」2019年4月号で特集掲載<中ページで紹介>

▼100年前の足袋シューズ(樺太―東京間の走破時)



◆日本が初めてオリンピックに参加した1912(明治45)年のストックホルム大会では、金栗四三(かなりしろう)がマラソン競技に出場しました。金栗は「日本マラソンの父」とも呼ばれ、2019年NHK大河ドラマ「いだてん」でも注目された人物。

◆この金栗に才能を見いだされ、共に陸上競技の普及に努めたのが、旧・連沼村出身の秋葉祐之。

◆秋葉は、教員養成機関であった東京高等師範学校(現・筑波大)で金栗の指導を受ける。在学中は、日本陸上競技選手権の25マイル(約40km)競技で走破を果たすなど、長距離ランナーとしての才能を開花。

◆卒業後、秋葉は理科の教員として木更津中学校(現・県立木更津高)へ。教壇に立つ傍ら、オリンピック選手など一流の陸上選手を招き、生徒たちとの交流の機会づくりなど、陸上競技を熱心に指導。

◆1922(大正11)年には金栗と共に、約1600㍑を走破する樺太―東京間マラソンなど、多くの人々にマラソンの楽しさを伝えました。



もう一人のいだてん

秋葉祐之 特別企画展

▲この展示は、東京2020オリ・パラ大会の500日前を記念して、2019年3月に山武市が開催した特別企画展。

秋葉祐之(1895-1968)のあゆみ



秋葉祐之にかかわる出来事		社会の出来事	
1895年(明治28年)	5月 1日 千葉県武射郡連沼村(現・山武市連沼)に生まれる		
1912年(明治45年)		7月14日	第5回オリンピック・ストックホルム大会が開催され、金栗四三が日本人初マラソンの部に出場
1916年(大正 5年)	3月30日 千葉県師範学校(現・千葉大学)卒業		
	4月 東京高等師範学校(現・筑波大学)入学		第6回オリンピック・ベルリン大会が第一次世界大戦の影響で開催中止
1917年(大正 6年)	4月27～29日 「東海道五十三次駅伝競走(京都～東京)」に出場し、関東組の優勝に貢献		
	5月 3日 校内徒歩部春期長距離大会で407人中1着になる(距離: 3里5町(約12.3km)、時間: 40分15秒)		
	7月22日 富士登山競走第2組1着になる		
	9月30日 奥都50周年記念京浜間25里(約98.2km)マラソン競走会予選会出場		
11月	第5回日本陸上競技選手権大会男子マラソン1着(距離: 25マイル(約40.2km)、時間: 2時間38分22秒)	11月 9日	世界初の社会主義国ロシア・ソビエト共和国が成立
1918年(大正 7年)	2月 第1回10マイル短縮マラソン1着		
	10月 2日 校内徒歩部秋期長距離大会で1着になる(距離: 6里13町(約25km)、時間: 1時間37分12秒)		
	11月 第6回日本陸上競技選手権大会男子マラソン1着		
	11月10日 大日本体育協会主催第6回陸上競技大会優秀記録賞を受賞する(11月3日開催10里競走、時間: 54分24秒)	11月11日	第1次世界大戦終結
1919年(大正 8年)	春 校内徒歩部春期長距離大会で250人中1着になる(距離: 3里5町(約12.3km)、時間: 41分15秒)	4月	ハリマヤ足袋店がコガゼを取り除き甲紐をつけた「金栗足袋」を発売
	7月22日～8月10日 金栗四三と下関―東京間1200kmを20日間で走破する		
1920年(大正 9年)	3月26日 東京高等師範学校(現・筑波大学)卒業	2月14～15日	第1回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)開催
		8月22日	第7回オリンピック・アントワープ大会が開催され、金栗四三がマラソンの部に出場
1922年(大正11年)	8月 金栗四三と樺太―東京間1600kmを20日間で走破する		
1924年(大正13年)		7月12日	第8回オリンピック・パリ大会が開催され、金栗四三がマラソンの部に出場
1958年(昭和33年)	5月 1日 連沼村の教育長に就任		
1968年(昭和43年)	10月 8日 73歳で死去		

金栗さんに素質を見いだされ、
マラソンランナーとして開花

もう一人の
「いだてん」
秋葉祐之さん

今年のNHKテレビの大河ドラマ「いだてん」東京オリムピック囃しの前半の主人公は金栗四三さんです。1912年（明治45年）第5回ストックホルム大会に日本人で初めてオリンピックに参加「日本のマラソンの父」として知られる金栗さんですが、単に自分がランナーとして走るだけでなく、有為な人材を育てあげることにも尽力します。金栗さんに見いだされた一人が蓮沼村（当時）の秋葉祐之さんです。祐之さんは各競技会で好成績を収めると同時に、師の金栗さんと二人三脚で全国を駆け巡っていきま

す。祐之さんのご子息の誠さん（86歳）にお父さんの思い出を語って頂きました。写真の祐之さんの優しい面影にそっくりです。



父・祐之さんと金栗四三さんの思い出を語る秋葉誠さん

誠さんは、祐之さんから聞いた思い出のエピソードを懐かしそうに語ります。4歳年上の金栗さんとはこの前年にマラソンでストックホルム・オリンピック大会に出場途中棄権に終わりますが、翌年には東京高等師範学校（現・筑波大学の）の徒歩部（陸上部）室長になり、鍛えがいのある若手ランナーを探し訪ねていたのです。



下関—東京間1200kmを力走する秋葉祐之さん（写真中央）



下関—東京間1200kmゴール直前の祐之さん（写真中央左）と金栗四三さん（玉名市立歴史博物館提供=右の写真も）

▼「広報さんむ」2019年4月号で特集掲載



ニングの重要性に先鞭をつけるものとなりました。

さらに、22歳のときの「東海道五十三次駅伝競走」が圧巻です。京都—東京間516キロを23人のランナーがたすきをつないでゴールを目指します。祐之さんは区間最長距離（28キロ）となる掛川—藤枝

間を任せられます。ところがアクションの発生。その模様を「陸上競技のルーツを探る」（筑波大学陸上競技部OB・OG会）では次のように記しています。

「見附—掛川間では関東組の古橋泰選手（一高）が左足アキレス腱断裂のため走行不能になり、次走者の秋葉祐之選手（東京高等師範）が車で迎えに行つて西島から12里48キロを4時間38分かけて走破するエピソードがありました」

また、1919年（大正8年）には祐之さんは金栗さんを訪ね「高師徒歩部に籍を置いて記念に、一緒に持久力テストをやりたい」と、下関—東京間の1200キロ走を持ちかけます。日程を調整し、7月22日に下関をスタート。二人はマラソンを広く普及させる狙いもあり、沿道の人たちとふれあいながら20日間で走り切ったとい

います。

蓮沼を訪れた金栗四三さん

東京高師を卒業した祐之さんは、本更津中学校（現・本更津高校）をはじめ全国の学校で生物の教師として教鞭を執ります。勉学のかたわらマラソンの楽しさを伝えていきました。

その集大成ともなるのが、金栗さんと二人で走った樺太—東京マラソン。1922年（大正11年）、20日かけて走り通しました。

「樺太や北海道では熊が出るというので、軍隊や土地の青年団が銅鑼を鳴らしながら伴走してくれたようです。マラソンの宣伝のため走ったと言っていました」と、誠さんは祐之さんを偲びます。その後、祐之さんは、日本統治下にあった朝鮮の開城商業学校で校長を務めます。

「私が生まれたのは開城時代で昭和8年、帰国したのは16年。勉強も走ることも、父は厳しくなかつたです」



樺太—東京マラソンのユニフォームと足袋。足袋には「金栗足袋」の銘がある。大きさは10文（約24cm）と小ぶりである

日本全国を駆け巡り、
青少年にマラソンの楽しさを広める

マラソンの両雄
金栗 秋葉 昨夕着京
樺太から三百四十里
を走破した新記録
両氏着京を元氣で語る



樺太—東京マラソンのときの祐之さん（左）と金栗さん（玉名市立歴史博物館提供）

二人の快挙を伝える東京朝日新聞の見出し（大正11年8月27日）。記事には「下関—東京よりも距離は長かったが疲れなかった」「スイカを一日に二つくらい二人でくらいました」などの談話を伝えている

<蓮沼の偉人伝承事業>

蓮沼むらづくり協議会・令和7年度事業

【山武市（蓮沼）出身】球界屈指の快速球ピッチャー

鈴木孝政

▼蓮沼中学校から成東高校へ進学、速球を武器に1年秋からエースの座に着く。

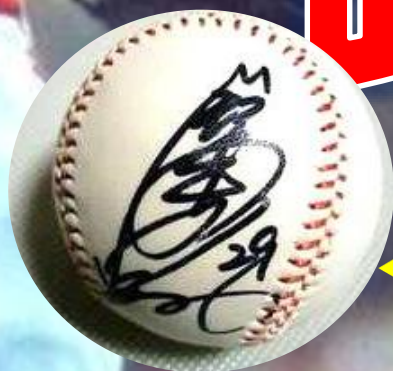
▼1972年のプロ野球ドラフト会議で中日ドラゴンズに1位指名されて入団。

▼150km台の伸びる快速球を武器に、ロングリリーフもこなす救援投手で活躍。

現「山武市

名誉スポーツ大使」

▲出典：「週刊ベースボールonline」Web
『球界200人が選んだ速球王ランキング
第12位・鈴木孝政』より



◀現役時のサインボール

▼【心揺さぶる名言】

「相手はごまかせても、ボールはごまかせませんでした。」
（1989/10/7の引退会見にて）

▼引退後は、野球解説者、投手コーチ、二軍監督を歴任

▼2016年「ドラゴンズベースボールアカデミー」初代校長に就任

▼2018年3月「山武市名誉スポーツ大使」に就任



▼蓮沼中

▼成東高

▼中日ドラゴンズ



Dragons

“背番号29”の由来(球団から提示エピソード)

↓昭和29年生まれで、実家がお肉屋さん。



選手↓投手コーチ(二軍・二軍)↓二軍監督

中日ドラゴンズ一筋

元 プロ野球選手(中日ドラゴンズ: 投手)

鈴木孝政 (すずき たかまさ) 背番号 **29**

1954(昭和29)年7月生まれ 右投・右打 山武市(蓮沼)出身

選手歴

山武郡蓮沼村立蓮沼中学校
千葉県立成東高等学校(甲子園出場経験なし)
1972(昭和47)年ドラフト1位指名
初出場: 1973(昭和48)年4月19日
最終出場: 1989(平成元)年10月14日
ドラゴンズ一筋(実働17年: 35歳で現役引退)



通算成績

586試合登板 124勝 94負 96セーブ (121SP)
(うち先発 170試合) 防御率: 3.49 奪三振: 1006

タイトル・表彰・記録

最多セーブ王 1回(1975年)
最優秀救援投手賞 2回(1976年・1977年)
最優秀防御率賞 1回(1976年)
カムバック賞 1回(1984年)【28試合登板 16勝8負】
オールスターゲーム出場 7回(1975~1978・1984・1985・1987)



経歴・etc

- ・快速球を武器にロングリリーフもこなす救援投手として活躍(セリーグで最も球の速い投手と称される)
- ・1982年シーズン途中から先発に移り、その後は技巧派の先発投手に
- ・長嶋茂雄・長嶋一茂親子と公式戦で対戦した唯一の投手
- ・著書「流汗悟道: 野球で学んだ人生哲学」(1995年: 海越出版社)
- ・コーチ歴 中日ドラゴンズ(1995年~1997年・2004年)
- ・二軍監督歴 中日ドラゴンズ(2012年・2013年)
- ・2016年「ドラゴンズベースボールアカデミー」初代校長に就任
- ・2018年(平成30年)3月「山武市名誉スポーツ大使」に就任

元プロ野球選手 山武市(蓮沼)出身
鈴木孝政 特別展示



◀▲道の駅オライはすめまにゆかりの品を多数展示

